

2022年1月25日

中国のエネルギー政策について

1. 中国の近年の5カ年計画について

中華人民共和国では、ソビエト連邦に倣って、中国社会主義経済の工業化を目指して五カ年計画が導入されました。第1次5カ年計画は1953年に始まり、当初は重工業の発展に重点を置き、中国を農業国から先進工業国に転換することが目的でした。

近年、5カ年計画は経済を重視するばかりでなく、以下のとおり炭素排出の削減とエネルギー利用の最適化にむけた目標など、環境保護を含むより広範な優先事項、ならびに医療保障、雇用創出などの社会福祉プログラムにかなりの視点が割かれています。

(1) 第11次五カ年計画（2006-2010年）

中国政府は、省エネ・汚染物質排出削減の施策を提出しました。国内のエネルギー総消費を20%削減し、主要な汚染物質の排出量を10%低減することを目指しました。

(2) 第12次五カ年計画（2011-2015年）

中国政府は、GDP単位当たりのエネルギー消費の削減量を制約的な指標とすると同時に、エネルギー消費総量を合理的に制御することを初めて提唱しました。ただし、当時は具体的な目標値は設定されていませんでした。

(3) 第13次五カ年計画（2016-2020年）

第11次と第12次5カ年計画の省エネ政策に基づいて、エネルギー消費総量抑制と合わせて“能耗双控”政策が実施されました（“能耗双控”というのは、エネルギー消費総量を抑制するとともに、エネルギー消費効率の改善を図ることにより、エネルギー消費をダブルで管理していく政策のことです）。

能耗双控の目標値は、5カ年計画の開始当初に各地域に割り当てられ、各地域の能耗双控の達成状況が公表されました。2016年当初には、公表の頻度は特に定められていませんでしたが、2021年以降、能耗双控の目標の達成率に対する評価の頻度は、年一回から年四回に増加され、公表する内容も「四半期通知+年度評価」と、網羅的に変更されたため、能耗双控の重要性は著しく高まりました。

(4) 能耗双控の実施状況

現在、国家发展改革委員会は能耗双控の実施状況を「赤黄緑」のランプ警報方式で評価しています。

- ・赤信号／一級警告：目標を達成せず、実績値と目標値の差が10%以上の地域
- ・黄信号／二級警告：目標が達成せず、実績値と目標値の差が10%以下の地域
- ・青信号／三級： 目標が達成した地域

直近の3回の評価結果を次表に示します。

単位当たりのエネルギー消費削減量の面では、寧夏省、広西省と広東省は長期的に赤信号（一級警告）であり、新疆、陝西省、浙江省、安徽省、黒龍江省、辽宁省は期間中目標を達成していません。

エネルギー消費総量の面では、雲南省は期間中赤信号（一級警告）であり、寧夏省、広東省、浙江省、安徽省の四つの地域は期間中目標を達成していない状況です。

地区	2019年 双控目标考 核结果	2020年前3季度		2021年第一季度		2021年上半年	
		能耗强度降低进 度目标预警等级	能耗总量控制进 度目标预警等级	能耗强度降低进 度目标预警等级	能耗总量控制进 度目标预警等级	能耗强度降低进 度目标预警等级	能耗总量控制进 度目标预警等级
北京	超额完成	●	●	●	●	●	●
天津	超额完成	●	●	●	●	●	●
河北	完成	●	●	●	●	●	●
山西	完成	●	●	●	●	●	●
内蒙古	未完成	●	●	●	●	●	●
辽宁	基本完成	●	●	●	●	●	●
吉林	完成	●	●	●	●	●	●
黑龙江	完成	●	●	●	●	●	●
上海	超额完成	●	●	●	●	●	●
江苏	完成	●	●	●	●	●	●
浙江	完成	●	●	●	●	●	●
安徽	超额完成	●	●	●	●	●	●
福建	超额完成	●	●	●	●	●	●
江西	完成	●	●	●	●	●	●
山东	完成	●	●	●	●	●	●
河南	超额完成	●	●	●	●	●	●
湖北	完成	●	●	●	●	●	●
湖南	完成	●	●	●	●	●	●
广东	超额完成	●	●	●	●	●	●
广西	完成	●	●	●	●	●	●
海南	完成	●	●	●	●	●	●
重庆	超额完成	●	●	●	●	●	●
四川	超额完成	●	●	●	●	●	●
贵州	完成	●	●	●	●	●	●
云南	完成	●	●	●	●	●	●
陕西	完成	●	●	●	●	●	●
甘肃	超额完成	●	●	●	●	●	●
青海	完成	●	●	●	●	●	●
宁夏	完成	●	●	●	●	●	●
新疆	完成	●	●	●	●	●	●

注：图中红灯表示一级预警，黄灯为二级预警，绿灯为三级预警。不同年份红绿灯划分标准存在差异。

表中、2020～2021年上半期の欄の左欄は、単位当たりのエネルギー消費の削減目標進捗状況、右欄はエネルギー消費総量の制御目標進捗状況で、それぞれの警告等級を示しています。

(5) 第14次五カ年計画（2021-2025年）

第14次五カ年計画と同時に2035年までの長期目標要綱が設定されました。

「2つのカーボン」（2030年までにカーボンピーク（CO2排出量のピークアウト）*、2060年までにカーボンニュートラル**（排出量実質ゼロ））という削減目標を設定し、省エネと炭素削減の要求はより厳しくなりました。

.....

* : CO2 排出ピークアウト

中国が、2030 年までに石炭、石油、天然ガスなどの化石燃料の燃焼、工業生産プロセスおよび土地利用の変化と林業などの活動で発生する温室効果ガスの排出量をこれ以上増やさずに、ピークに達するようにすることを指す。

** : カーボンニュートラル

一定期間内に、直接的または間接的に生み出す温室効果ガスの総排出量について、植樹・植林、省エネ・汚染物質排出削減などの方法を通じて生み出す二酸化炭素の排出量と相殺し、CO₂ (二酸化炭素) の「ゼロ・エミッション」を実現することを指す。

.....

また、GDP 単位当たりのエネルギー消費量と二酸化炭素の排出量の削減目標として、それぞれ 13.5%、18%の削減が制定されました。2021 年の GDP 単位当たりのエネルギー消費量の目標は 3%削減が要求され、達成が非常に難しい目標値となっています。

「2つのカーボン」の目標を達成するために、2020 年 12 月に国務院は正式に「新時代の中国のエネルギー発展」白書を発表しました。その中で「4つの革命（消費、供給、技術、システムの革命）、1つの協力（国際協力）」と題するエネルギー発展戦略を提唱し、徹底的に実施するよう呼びかけました。中でも、「エネルギー消費革命の推進と不当なエネルギー消費の抑制」を一番重要な項目と見なし、その実現のために、能耗双控を推進することに最も注力することが確認されました。

(6) 能耗双控について

A. 主要な対応

下記の 3 点があります。

- ① 各地域の政府に対して、当地のエネルギー消費総量と単位当たりのエネルギー消費量制御の目標を課し、監督と評価を実施します。
- ② 省エネの指標を、生態環境の保全やグリーン開発などの評価システムに組み込み、その結果、社会全体が変革しているとの認識を広めます。
- ③ エネルギー消費量が多い企業に対して、能耗双控の目標値の割り当て、責任者の評価を実施し、省エネ管理を促進します。

B. 段階的实施

能耗双控を実施する上で、その実効性を上げるために、以下の「三段階に分けて実施する」政策も確立されています。

- ① 第一段階：2025 年までに、能耗双控が完備され、エネルギー資源の配置も合理的にされ、利用率が大幅に向上されることを目指しています。
- ② 第二段階：2030 年までに、能耗双控が改善され、単位当たりのエネルギー消費量は大幅に低下され、エネルギー消費総量が合理的に制御され、エネルギーの構造は最適化

することを目指しています。

- ③ 第三段階：2035年までに、エネルギー資源配置の最適化、省エネ制度の成熟化と定型化、「2つのカーボン」の排出量がピークになった後に安定した上で減少に転じるとの目標を実現することを目指しています。

2. 「2つのカーボン」と「能耗双控」の政策のねらい

従来のエネルギー高消費の産業が変革を実行し、生産能力低下の設備を交換し、低炭素で環境に優しい製造工程に改善することは最も重要です。「2つのカーボン」と「能耗双控」制度は、従来のエネルギー高消費産業を完全に排除することではなく、エネルギー高消費産業には資源の利用効率を改善させ、クリーンで低炭素な近代的エネルギー体系の構築を加速し、再生可能エネルギー産業の持続的で、健全な発展を促進することが主要な目的です。

その達成のために、化石燃料の代わりに水力エネルギー、風力エネルギー、太陽エネルギー、バイオマスエネルギー、地熱エネルギーおよび海洋エネルギーなどのクリーンエネルギーを使い、クリーンエネルギー生成の割合を高めると同時に、化学産業にクリーンエネルギーの利用促進を求めます。クリーンエネルギーの直接の利用は、炭素の消費量を削減する重要な手段です。

さらに、伝統的な生産技術の革新を行い、低炭素化の生産の応用をさらに促進していきます。

「2つのカーボン」と「能耗双控」の政策が及ぼす影響は、引き続き継続すると推測されるため、引き続き情報を収集し、新しい情報を入手しましたら、ご報告いたしますので、よろしくお願いいたします。

以上